

第66回指導者会議（日本学生陸上フォーラム2021）開催要項

プログラム1（報告）： 第30回ユニバーシアード競技大会（2019/ナポリ）の報告

2019年7月3日（水）～14日（日）にナポリ（イタリア）において第30回ユニバーシアード競技大会が開催されました。安井年文氏（下記参照）が報告します。

プログラム2（フォーラム）：今後の実学対抗戦のあり方を考える―検証と課題―

日本学生陸上競技連合では、日本陸上競技界の発展のため、毎年「指導者会議」の名の下、シンポジウムやフォーラム、講演等を通じて競技者の強化に関するさまざまな課題について考えてきました。

過去4回の指導者会議のテーマ等は次の通りでした。1) 第61回：日本実業団陸上競技連合（実業団連合）と日本学生陸上競技連合（学生連合）学連の相互協力をキーワードとして学生アスリートの就職支援や就職後の練習環境支援に関するテーマ。2) 第62回：リオ代表らと語ろう―学生アスリートを東京2020へ―（「大きな舞台に出場して見えてきたもの」「学生時代にやっておくべきことは何か」）。3) 第63回：ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題。4) 第64回：個人選手権大会のあり方を考える―検証と課題―。

昨年度の第65回（日本学生陸上フォーラム2020）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の視点から中止となりました。（参照：学生連合 Website <<https://iuau.jp/iinkai/sidousya/65kaisaichushi.pdf>>2020年2月27日）

そこで、今回のフォーラム2021は、上記会議等の成果も参考としながら、昨年度のフォーラム2020のテーマを再び取り上げて、実業団連合と学生連合が主催する実学対抗戦に焦点を置きます。本フォーラムの目的は、今後の実学対抗戦のあり方を考えるために、現状の世界陸連ワールド・ランキング制度や中長期的な視点に立ったアジアパーミット大会の開催も視野に入れながら、実学対抗戦（第1回～第59回）の検証を行って今後の課題を明らかにすることにあります。この時、現状のコロナ禍における競技関係者の安全・安心の確保を図った競技者強化や競技会運営のあり方についても併せて意見交換をしていきたい。各演者には検証の視点（注1）と資料（注2）を参考にして発言してもらいます。また進行についてはフロアも含めて活発な意見交換の場になるように努めます。

注1) 検証の視点：実学対抗戦（第1回～第59回）の歩みや特徴など。注) 第60回（2020年）は中止であった。

（参照：学連 Website <https://iuau.jp/ev2020/2020all-star/2020all-star_chushi.pdf>2020年5月14日）

注2) 資料：実学対抗戦の歩み（概要）、世界陸連ワールド・ランキング制度（IAAFポイント・ランキング制度）、アジアパーミット大会など。

記

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために理事会が対面会議からリモート会議に変更になりましたので、フォーラム2021もリモートで開催することになりました（2021年1月18日）。

1. 主 催 公益社団法人日本学生陸上競技連合
2. 日 時 2021年（令和3年）3月6日（土）（理事会終了後）
 - 15:15～15:20 進行等について（司会）
 - 15:20～15:30 開会挨拶（会長）、提案趣旨（委員長）
 - 15:30～15:50 プログラム1（報告）
 - 16:00～17:30 プログラム2（フォーラム）
 - 17:30～17:40 まとめ（委員長）、閉会挨拶（専務理事）
3. 開催方法 オンライン形式（Zoomによる開催）（接続方法は後日連絡いたします）
4. 対 象 実業団連合関係者、学生連合（理事会関係者、強化委員会・競技委員会関係者）
5. 司 会 障子恵氏（跡見学園女子大学、学生連合：総務委員長・指導者会議運営委員）
6. コーディネーター 船原勝英氏（元共同通信スポーツ企画室長、学生連合：倫理委員長・指導者会議運営委員）
7. 演者（順不同）
 - プログラム1 安井年文氏（青山学院大学、第30回ユニバーシアード競技大会日本代表選手団監督、学生連合：強化副委員長）
 - プログラム2 酒井勝充氏（コニカミノルタ陸上競技部副部長、実業団連合：強化委員長）
 - 栗山佳也氏（大阪体育大学、学生連合：常務理事・強化委員長）
 - 関根春幸氏（学生連合：常務理事・競技委員長）